



① 【基本構想編】による都心部の将来像とは・・・？

都心部の将来像は「ひがし北海道の「かお」となる「人」が集う、交流と賑わいの拠点、多様なライフスタイルに対応した豊かな暮らしの拠点を形成し、次世代に継承することを目指す」こととしています。

計画の愛称

リンク
RINK 釧路Re:IInnovation to NNext generation , central Kushiro
～次世代に向けた釧路都心部のRe・Innovation～

図表 都心部の将来像に基づくまちの未来イラスト（基本構想編からの抜粋）



釧路駅の南北の広場がつながり、駅から、バスターミナルから、北大通から、駅の「裏」だった駅北から、多くの人が行き来しています。

観光客で賑わう市場、仕事帰りや乗り継ぎついでにふらっと買い物ができるスーパー、学生が勉強したり友達とおしゃべりできるカフェなど、駅前には、釧路駅を訪れる様々な人が思い思いの時間を過ごすことができます。

駅前広場では、日常的に行われる地産マルシェ、炉端焼きの屋台、コーヒースタンドなどで賑わっています。出店しているのは、地元の生産者とのつながりを生かして釧路の「食」の魅力を発信している若い人たちです。周りでは子どもたちが広場の芝生で遊んでいて、親子連れの賑やかな笑い声が聞こえてきます。



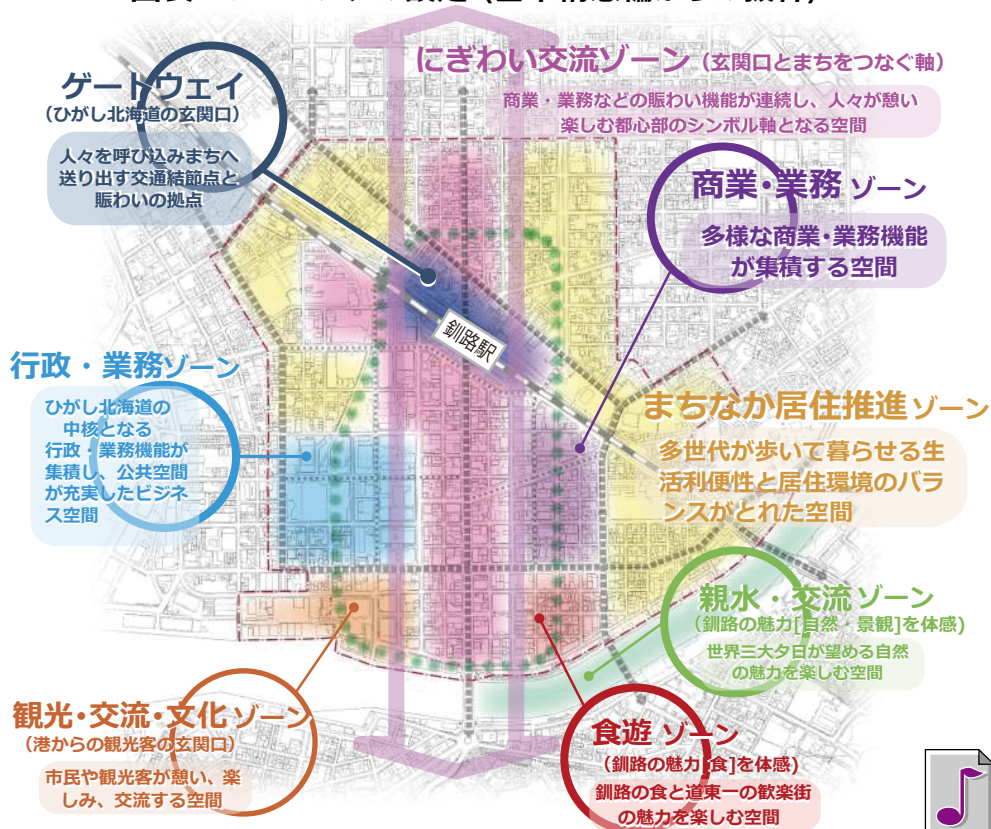
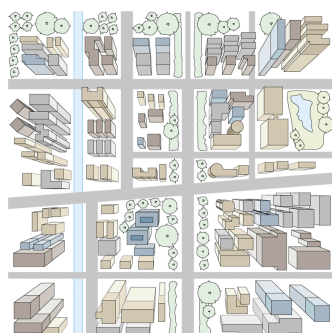
② 【基本構想編】によるゾーニングってなに・・・？

ゾーニングとは、建築物などの機能や用途を考えて、空間を分けて配置することです。これによって、各ゾーンの個性や特徴を明確にし、都心部の魅力を創出する機能の集積や充実を図るほか、各ゾーンの相互間の「回遊性を備えたネットワークづくり」を進めることによって、活気とにぎわいの創出を目指します。なお、ゾーニングは法や条例等により定めておりませんので、法的な拘束力はありません。

図表 ゾーニングの設定（基本構想編からの抜粋）

【基本構想編】では、右の図表のように、都心部の各エリアの特性を踏まえた**8つのゾーニングを設定**しました。

市では、【事業構想編】の策定に向け、この**8つのゾーニング**の連携を高めていくための新たな道路ネットワーク等について検討を進めています。



3-3 都心部・釧路駅周辺（ゲートウェイ）のめざすべき姿

市では、前ページ(第2章【事業構想編】の基本理念・基本方針)を踏まえ、**都心部の将来像を実現するための新たな道路ネットワークを提案します。**

新たな道路ネットワークの概念図（案）

ゲートウェイ（ひがし北海道の玄関口）を訪れた人々を、**にぎわい交流ゾーン**（玄関口とまちをつなぐ軸）でまちなかに導き、各ゾーン（行政業務・食遊など）に人の賑わいを波及させる道路ネットワークとする。

道路の役割

既存の4車線道路などで構成し、広域交通や通過交通を処理する道路

-  **都心部環状道路**
(黄色は跨線橋を平面化する区間)
-  **都心部放射道路**

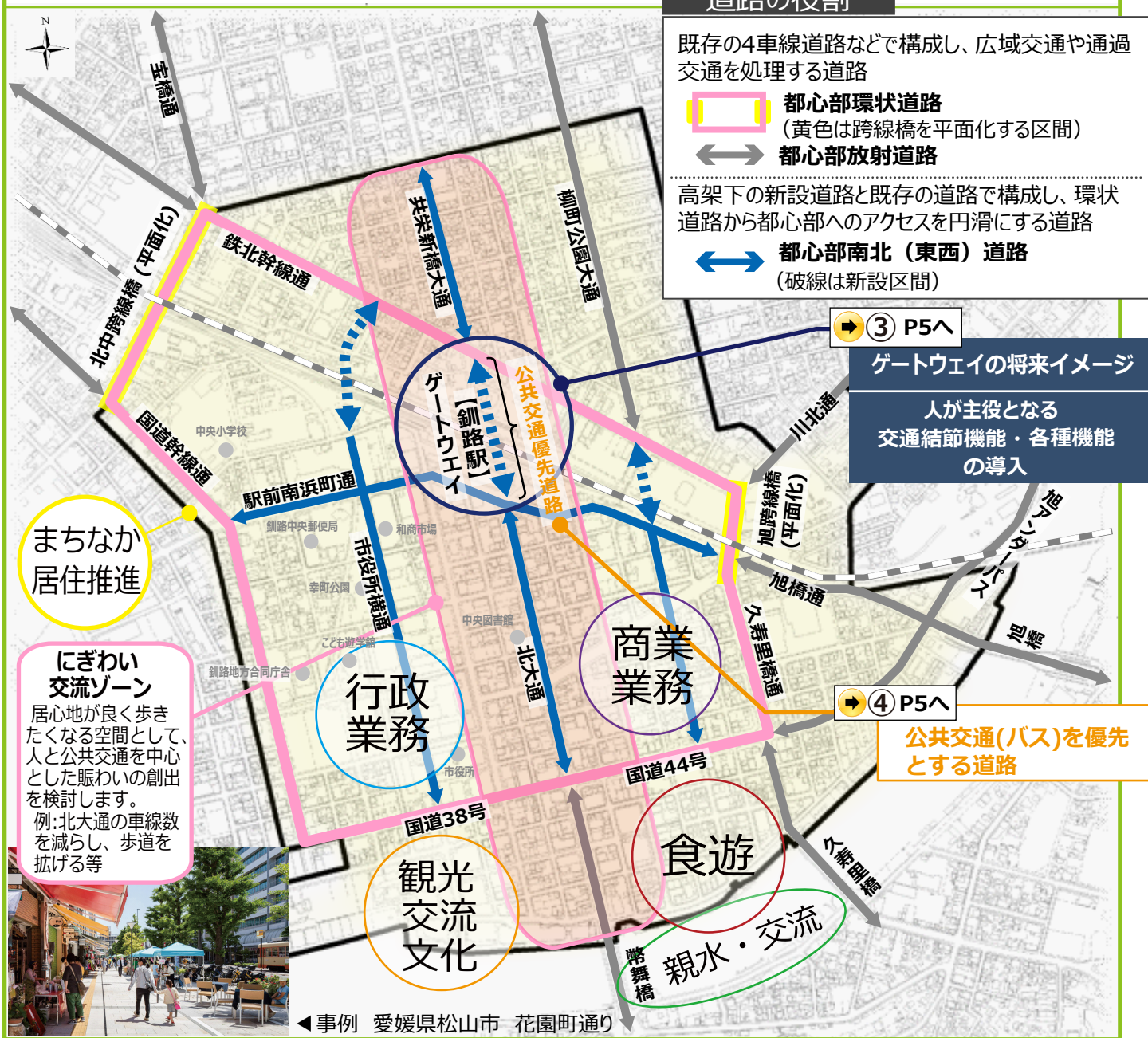
高架下の新設道路と既存の道路で構成し、環状道路から都心部へのアクセスを円滑にする道路

-  **都心部南北（東西）道路**
(破線は新設区間)

ゲートウェイの将来イメージ

人が主役となる
交通結節機能・各種機能
の導入

公共交通(バス)を優先
とする道路



市のシンボルロードである北大通や、駅前の旭橋通、駅前南浜町通などは、**都心部に用事が無く、通り過ぎる自動車交通が多く、人の賑わいが生じにくくなっています。**そこで、都心部に用事の無い市民の皆さんは、**都心部環状道路・放射道路を利用して、都心部を通り抜けて頂くこと**で、都心部環状道路の区域内を**通過する交通が減少することが想定されています。**

通過する交通が減少することで、北大通等の歩道上に休憩施設など、**憩いの場等を設けることが可能となるほか、災害発生時における交通混雑の解消も期待されています。**